

## 第4回 オリンピック・パラリンピック教育推進プログラム

# 東京都八王子区立 第五中学校 開催報告

vol.04  
2019.11

開催日 2019年10月3日（木）

第4回となる「オリンピック・パラリンピック教育推進プログラム」を、八王子市立第五中学校にて、1年生から3年生475名を対象に開催いたしました。

当日は、午後の授業時間を利用して、義肢装具士による講義と、義足ユーザーによる講演とデモンストレーション、義足ユーザーへの質疑応答で交流を実施しました。

今回のプログラムは(公社)日本義肢装具士協会 障がい者/パラアスリート/P0啓もうWGと東日本支部から運営スタッフ2名が対応しました。それぞれのプログラムについて解説いたします。

### 義肢装具士による講義

講義は主に、「障がいについて」「義肢装具の分類」「義肢装具士とは？」「スポーツ用義足」に関して話されました。

講演開始時には普段聞きなれない多くの専門用語に、生徒の表情に緊張が垣間見られましたが、生徒と対話形式でスライドを進めて行くと次第に緊張はほぐれ、生徒達は講師の話を終始聞き入っていました。



## 義足ユーザーによる講演 & デモンストレーション

講師には下腿義足ユーザーで現役のパラリンピック陸上競技者(走幅跳日本記録保持者)に協力いただきました。

講演内容は「自己紹介」「切断原因と心境」「パラスポーツの出会い」「今後の目標」に関して話されました。切断原因や障がいについて当事者にしか伝えることができない体験談をもとに、分かりやすい言葉で丁寧に説明されていました。



講演後に、下腿義足ユーザーによるデモンストレーションが行われました。義足の脱着、常用義足の回覧、断端の接触、スポーツ用義足による走行と片足飛びなどが行われました。

講演後の質疑応答では「切断部位によって記録は変化するのか?」「義足の関節はどのように動いているのか?」「義足の作り替え時期は?」「好きな人が出来たときに、どのタイミングで義足であることを伝えるのか?」「スポーツ用義足で走ることは怖くないのか?」など、活発な質疑応答となりました。

## イベントを終えて...

今回のプログラムは、生徒が実際に義肢装具の装着や接触をする「義肢装具体験イベント」とは異なり、1時間の枠内で、義肢装具士1名、義足ユーザー1名の講演とデモンストレーションを行う内容でした。

タイムスケジュールは適当であり、生徒は飽きることなく充実した時間を過ごせていたと考えます。他に、義肢装具士や義足ユーザーへの質問、実際に義足を触って感触を確かめるなど、生徒達はもちろんの事、校長先生や教職員の方々にも「オリ・パラ」に関して大変興味を持って頂けた内容であったと思います。

今回で4回目となる「オリ・パラ教育推進支援プログラム」を中学校で開催しましたが、感受性豊かな年頃に「障がい者・パラアスリート」、その方々を支援する義肢装具士の業務を伝える事は、「障がい者理解」や「ボランティアマインドの育成」に通じる非常に大切な教育支援事業であると考えます。

当協会WGでは、これからも積極的にオリンピック・パラリンピック教育推進プログラムに取り組んで参ります。